

[第1号議案]

1-1. 2023 年度事業報告

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1：一般社団法人としての活動の整理
5. 実施事業2：DEIM
6. 実施事業3：国際・学会連携
7. 実施事業4：最強データベース講義
8. 実施事業5：データ作法（セミナー等）
9. 実施事業6：学生企画
10. 実施事業7：産学連携推進
11. 実施事業8：情報システム
12. 実施事業9：広報
13. 実施事業10：論文誌編集
14. 実施事業11：表彰
15. 実施事業12：ダイバーシティ推進
16. 補足説明：名誉会員の推薦

その他・附属明細書

2023 年度事業報告

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2023 年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 3 年目であった。2021 年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022 年度には役員を改選し会長が交代した。それに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023 年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正を行い、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行った。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与する。

2. 会員数について

2021 年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021 年度より DEIM の参加者は DBSJ 会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が 2022 年度は 822 名、2023 年度は 895 名と大幅に会員が増加した。

	2021 年度総会	2022 年度総会	2023 年度総会	2024 年 3 月末
正会員	484 名	822 名	895 名	904 名
学生会員	74 名	503 名	750 名	792 名
維持会員	21 社	26 社	26 社	26 社

2023 年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来 DBS

研，DE 研登録者はフルアクセス権付だったが，その特典を無くし，第一種正会員は年会費を支払うこととした。ただし，DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより，その年度の年会費を支払ったか，前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員となる。2023 年度末時点で，第一種正会員は 355 名，第二種正会員は 549 名であった。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を実施した。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努めた。

3.1 2023 年度 定時総会

2023 年 6 月 16 日(金)に武蔵野大学有明キャンパス 1 号館 4 階 1-406 号教室とオンラインによるハイブリッドで開催した。

3.2 理事会および各種委員会

理事会は以下の通り，計 9 回開催した。

第 21 回と第 25 回はハイブリッド開催，他はオンライン開催であった。

第 20 回：2023 年 6 月 1 日(木)	第 21 回：2023 年 6 月 16 日(金)*
第 22 回：2023 年 7 月 27 日(木)	第 23 回：2023 年 10 月 5 日(木)
第 24 回：2023 年 11 月 27 日(月)	第 25 回：2023 年 12 月 8 日(土)*
第 26 回：2023 年 12 月 27 日(水)	第 27 回：2024 年 1 月 26 日(金)
第 28 回：2024 年 3 月 23 日(土)	

維持会員が参加する評議委員会を 2023 年 9 月 13 日(水)にオンラインにて開催した。

その他各種委員会もすべてオンラインにて開催した。

4. 実施事業 1：一般社団法人としての活動の整理（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は，一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に，よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では，2023 年度の改善項目を挙げている。

【活動概要】

4.1 会員・会費制度改正

2022 年度から検討してきた、正会員を第一種と第二種に分け、年会費を支払う第一種正会員が選挙権・被選挙権をもつように定款・会員規程を改訂する案を 2023 年度 DBSJ 定時総会および DBSJ 理事会にて承認した。また、名誉会員が第一種正会員および維持会員と同等の権利を持つように、高校生と中学生も学生会員となることができるように定款を変更した。さらに、DEIM 参加者に対する次年度年会費免除を規定により定めた。

名誉会員が第一種正会員と同等の権利をもつことが明確になったことを受けて、3 月の理事会で 15 名の会員を名誉会員として推薦した。

4.2 委員会組織の継続的見直し

定款第 4 条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会構成を随時見直し、2024 年度の委員会構成として、若手活性化委員会、会員交流委員会の 2 つの委員会を新たに設け、また、ハラスメント防止・D&I 推進に関しては常設の委員会に変更する案を策定した。

4.3 事務局機能の強化

2023 年度より事務局機能を強化するため、事務局業務の一部を業務委託した。

また、事務局の会計業務に関し、経費精算に関する規程や帳票類を整備するとともに、オンライン決済の円滑化のためビジネスカードの導入も実施した。

4.4 理事交代方法改善の検討

2024 年度の役員選挙に向けて、役員候補者を検討する際に、理事交代の方法を改善した。具体的には、連携組織（DBS、DE、SIGMOD-J）の組織長を理事候補者に含めるとともに、一定以上の口数の維持会員に対して、理事候補者の選出を打診することとした。

4.5 一般会計と特別会計の見直し

特別会計を廃止し、一般会計に統合した。また、一般会計は、毎年の定常的な活動に関する収支を記載した「運転資金」、国際会議関連の収支を記載した「国際会議準備金」、システム開発など一時的に発生する費用の収支を記載した「事業積立金」の 3 区分で管理することとした。2023 年度は、国際会議 VLDB の余剰金を運転資金から国際会議準備金に移すなど、区分間の見直しを行った。

4.6 消費税課税業者への移行

一般社団法人日本データベース学会は、これまで、消費税課税免税業者だったが、2023 年度より 2 期前の 2021 年度の売上げが 1000 万円超となったため、消費税課税業者に移行した。また、2023 年度 10 月 1 日より消費税のインボイス制度が施行されるのにもとない、本学会は、インボイス制度適用を申請し、10 月 1 日以後は、インボイス適用団体となった。これに伴い、事務局の会計業務の一部を外部の税理士法人に追加委託した。

4.7 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第 4 条第 1 項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めた。具体的には、今後の本会活動を役員で議論するため、12 月 8 日に甲南大学 NC 東京及び Zoom オンライン会議のハイブリッド形式にて、「DBSJ のさらなる進化に向けて」の議論を実施。現地 2 チーム、オンライン 1 チームの構成で、(1)産学交流の活性化と、(2)若手研究者の活動活性化の 2 テーマで議論。結果は、「次期会長・次期役員及びビジョン検討 WG」を 6 回開催して議論し、2024 年度の事業計画や委員会構成に反映した。

5. 実施事業 2 : DEIM (定款第 4 第 1 項 1 号)

担当：イベント委員会

本事業の目的は、DEIM (データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム) を DB コミュニティ最大の研究発表、交流の場として、DB コミュニティの活性化及び拡大化のための中核をなすイベントとすることである。

【活動概要】

DEIM2024

会場：オンラインと対面アクリエ姫路

対面：2 月 28 日～3 月 1 日 オンライン：口頭発表

3 月 4 日 チュートリアル、インタラクティブ、ネットワーキング、

DBSJ 学生企画+産学連携

3 月 5 日 インタラクティブ、DBSJ アワー

投稿状況

論文発表 420 件 (申し込み 446 件)

ロング 355 件、ショート 58 件、直前キャンセル 7 件

インタラクティブ発表 371 件

スポンサー数：22社（内新規10社）

プラチナ：8社（内新規1社）

ゴールド12社（内新規7社）

シルバー：2社（内新規2社）

維持会員13社，非維持会員9社

参加者数：800名

会費区分

区分	事前参加登録価格 (税別)(~2/16まで)	当日参加登録価格 (税別)
一般(DBSJ会員)	12,000円	30,000円
一般(本申込でDBSJに登録)	12,000円	30,000円
一般(非会員)	24,000円	30,000円
学生(DBSJ学生会員)	1,000円	5,000円
学生(本申込でDBSJに登録)	1,000円	5,000円
学生(非会員)	2,000円	5,000円
招待者(招待コードが必要)	無料	無料

トピック

- ① DEIM2023に引き続き，直列型ハイブリッドにて開催
(口頭発表はオンライン，インタラクティブ，チュートリアル等は対面)
- ② 直列型ハイブリッド開催においてオンラインから対面の間となった土日は休日または移動日とした。
- ③ 参加者をDBSJ会員とし，DEIM2024に参加した会員は会員費無料とした。
尚，オプトアウト方式にて会員の希望しない人は非会員とした。
- ④ 参加費を事前登録と直前登録とで分けた(事務効率化のため)
- ⑤ 事務効率化のため，HPや参加登録をconfit(アトラス社)で行った。
- ⑥ 対面時コミュニティの活性化を図ることを目的として，昨年に引き続きネットワーキングを行い，盛況だった。
- ⑦ ネットワーキングと並列セッションとして産学連携セッションを開催し，こちらも盛況だった。

6. 実施事業3：国際・学会連携（定款第4第1項1号）

担当：国際連携・学会連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントを実施することである。国際連携では、日本と韓国、中国間のDB コミュニティの連携を深めることを目的とする。学会連携ではDBSJ と各学会のDB系研究会が連携することを目的とする。

【活動概要】

- (1) 第14回ソーシャルコンピューティングシンポジウム
The 14th Social Computing Symposium (SoC 2023)
日時：2023年6月16日
場所：武蔵野大学有明キャンパス（オンラインとのハイブリッド開催）
主催：日本データベース学会（DBSJ）
電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会
ACM SIGMOD-J
協賛：情報処理学会 データベースシステム研究会
ARG Web インテリジェンスとインタラクション研究会
DBSJ 総会等との合同開催
発表件数：10件
招待講演：2件（日本放送協会（NHK）報道番組センター社会番組部（デジタル開発班） 鈴木章雄氏、株式会社 AbemaTV 開発本部 海老澤颯氏）
日本データベース学会特別功労賞記念講演：喜連川優先生
参加登録者：162名

- (2) 先端的データベースとWeb技術動向講演会
(ACM SIGMOD 日本支部大会)
日時：2023年7月8日（土）13:00-17:25
会場：オンライン
WWW 報告+PAKDD 招待講演報告
WWW：兵庫県立大大島研&山本研学生、PAKDD：阪大櫻井研究室木村先生
参加者：28名

日時：2023年11月18日（土）13:00～15:20
会場：オンライン
VLDB2023：NTT コンピュータ&データサイエンス研究所 別所様

参加者：11名

主催：日本データベース学会（DBSJ）

ACM SIGMOD-J

(3) WebDB 夏のワークショップ(DBS/IFAT/DE 合同研究会)

日時：2023年9月21日ー22日

場所：北九州国際会議場

テーマ：ビッグデータを対象とした管理・情報検索・知識獲得および一般

発表件数：39件

参加者数：70名

(4) Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

日時：2023年11月27日（金）ー29日（日）

対面実施：山口湯田温泉

参加者 日本側 31名 韓国側 23名 合計 54名

(5) 日中ワークショップ

2023年度はコロナ禍の影響で残念ながら開催できなかった

7. 実施事業4：最強データベース講義（定款第4条第1項1号および7号）

担当：DBSJ 講義委員会

本事業の目的は、DB 関連分野の各項目について、その道の第一人者ならでの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

- ① 講義コンテンツの作成と配信
- ② 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
- ③ タグ付けや講義間関係などの整備と公開準備
- ④ コンテンツを利用した勉強会等派生イベント、他の活動(DEIM 等)への接続性の検討

【今年度の実績】

- 4月24日 #24 データ連携分析技術 ～データでつなぐ人・もの・コト～ (是津耕司様)
申込者数 89名 (学生6, 一般83)
- 6月7日 #25 あたらしいSQLのかたち ～仮説の生成と解釈～ (石川博 先生)
申込者数 91名 (学生3, 一般88)
- 6月20日 #26 差分プライバシーとは何か(佐久間淳先生)
申込者数 76名 (学生7, 一般69)
- 7月19日 #20-2 ネットワークトラフィックデータ解析 (小口正人先生)
申込者数 49名 (学生2, 一般47)
- 9月27日 #27 機械学習で関係を予測する～組合せ特徴・ランダム特徴の活用～(小山聡先生)
申込者数 77名 (学生3, 一般74)
- 10月25日 #28 神経活動データ解析の基礎(手塚太郎先生)
申込者数 36名 (学生1, 一般35)
- 11月22日 #29 検索・対話システムの公平性を評価する(酒井哲也先生)
申込者数 44名 (学生4, 一般40)
- 12月19日 #30 グローバルトランザクションを実現する技術(山田浩之氏)
申込者数 94名 (学生8, 一般86)
- 1月22日 #31 大規模言語モデルの基礎・最新動向(西田京介氏)
申込者数 311名 (学生50, 一般261)
- 2月21日 #32 大規模言語モデルを作り拡張する -- LLM, RAG, Agents (小山田 昌史 氏)
申込者数 159名 (学生9, 一般150)
- conpass グループ登録者数(2024年3月23日現在) : 1723名
- Youtube チャンネル登録者数(2024年3月23日現在) : 8680名

8. 実施事業5 : データ作法 (セミナー等) (定款第4第1項1号及び5号)

担当：セミナー委員会

本事業の目的は、セミナーを通じて、研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し、法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを 2019 年度から著作権法や個人情報保護

法, AI や医学系研究の倫理等に関する課題などを対象として開催してきた。このような法律に関わる課題に取り組むため, 法律の専門家による法的な話題の講演に加えて, 企業などからの実践的な課題に対する講演, さらには参加者を交えた深掘りの議論するためのパネルディスカッションで構成されるセミナーとして企画・開催している。2023年度は計8回のセミナー委員会を開催して生成AIを主テーマに「生成AIを使う」「生成AIを作る」「生成AIのガバナンス」のセミナーを計画し, 以下の様に開催した。

2023年7月1日(土) 13:00-17:00

第1回DBSJセミナー 「AI生成コンテンツ利用における法的課題や活用事例」

講演1: 企業やアカデミアで生成AIを利用する場合の著作権・個人情報保護法制に関する課題について

弁護士法人STORIA

DBSJ理事

柿沼太一

森・濱田松本法律事務所

田中浩之

講演2: ChatGPTをベースとした「ConnectAI」の全社員への展開事例

パナソニックコネクタ株式会社 IT・デジタル推進本部

戦略企画部 シニア・マネジャー

向野 孔己 (むかいの ひろき)

講演3: Gunosyにおける生成AI活用プロジェクトの紹介

株式会社 Gunosy テクノロジー本部 データサイエンス部 部長 小澤 俊介

株式会社 Gunosy テクノロジー本部 R&D 飯塚 洸二郎

パネルディスカッション モデレーター 横田治夫(DBSJ 会長)

柿沼太一, 田中浩之, 向野 孔己, 小澤 俊介, 飯塚 洸二郎

聴講者 約130名弱 (最大聴講者数)

2023年9月2日(土) 13:00-17:00

第2回DBSJセミナー 「AI生成コンテンツ開発における法的課題や活用事例」

講演1: 生成AI構築時における個人情報保護規制と著作権保護

弁護士法人STORIA

DBSJ理事

柿沼太一

森・濱田松本法律事務所

田中浩之

講演2: サイバーエージェントにおける生成AIの開発について

株式会社サイバーエージェント AI 事業本部 AI クリエイティブ Div
機械学習エンジニア

石上 亮介

講演 3 : 大規模言語モデル周辺技術と応用について

LINE 株式会社 AI 開発室 NLP PF Dev チーム マネージャ
牧田光晴

パネルディスカッション : モデレーター 横田治夫(DBSJ 会長)

柿沼太一, 田中浩之, 石上 亮介, 牧田光晴,

聴講者 : 約 70 名弱 (最大聴講者数)

2023 年 11 月 11 日(土) 13:00 – 17:00

第 3 回 DBSJ セミナー「生成 AI ガイドラインにおける法的課題や活用事例」

講演 1 : マルチモーダル AI の社会的インパクトと課題

公益財団法人東京財団政策研究所 研究主幹
東京大学大学院 特任教授/ 東京大学名誉教授
須藤 修

講演 2 : 世界の AI ガバナンスの動向

京都大学 法学研究科 特任教授
スマートガバナンス株式会社 代表取締役 CEO
羽深 宏樹

講演 3 : 生成 AI への取組みと行政 DX の可能性

兵庫県 情報戦略監
赤澤 茂

パネルディスカッション : モデレーター 横田治夫(DBSJ 会長)

須藤 修, 羽深 宏樹, 赤澤 茂, 木俣豊 (DBSJ 特命副会長)

9. 実施事業 6 : 学生企画 (定款第 4 第 1 項 3 号)

担当 : 企画委員会

本事業の目的は、本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし、学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に、学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう、DBSJ として支援する。

【活動概要】

- (1) イベント・プログラムの企画～設計の支援
- (2) イベント・プログラムの運営支援
 - ・2023/6～9月に4回の企画会議を実施、開催計画を練った

 - ・2023/10/11 DBSJ 学生企画 **第12弾**を開催した
「株式会社ソラコム 片山さんに聞く！！
～IOTの民主化を目指して大企業からスタートアップへ～」
【参加者：約40名】

 - ・2024/3/4 DEIM2024にてDBSJ 学生企画 **第13弾**を開催した
「DEIMを羽ばたいた学生の今」
【パネリスト：12名、参加者：約150名】
※約2時間に渡るパネルディスカッションは、54件もの質問が寄せられるなど
大変に活況な場となった

10. 実施事業7：産学連携推進（定款第4第1項3号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間、さらにはインダストリアルとインダストリアルの間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

【活動概要】

- (1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム
下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。
 - ・東芝デジタルソリューションズ：GridDB
→3件の利用申請があり、それぞれを承認、研究に活用いただいた

- (2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）
DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下、IDR）に参画している企業より希望者に対しデータを提供し、実データを使った研究を

支援するプログラムであり、本年度は12/11(月)に一橋講堂にて開催された(オンライン開催は4年ぶり。現地参加：150名、オンライン参加：40名)

<https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/2023.html>

・下記の発表にDBSJ特別賞を授与した

「地域特性推定のための地物カテゴリを利用した自己教師あり学習」

福地湧氏(関西学院大学)

牛尼剛聡氏(九州大学), 田中克己氏(福知山公立大学), 角谷和俊氏(関西学院大学)

→2024/3 DEIM2024に招待, 口頭発表の機会を提供した

(3) 産学マッチング(企業課題×研究テーマ)ならびに産産交流

12/8金 DBSJ理事会(第25回)にて「産学連携 交流促進」をテーマにブレストを実施。その中で「産学マッチング」「交流促進」の方向性について方針を検討した

・産学マッチング:次年度も引き続き検討を進める

・交流促進:2024/6 SoCにて産×学パネルを実施することを決定した

1 1. 実施事業8:情報システム(定款第4第1項6号)

担当:情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

【活動概要】

(1) 会員システムの第二期改修

新会員システムの構築が完了し、2024年1月に納品が完了した。同年2月より運用を開始した。

(2) Web・会員DBの運用・維持

前会員システムから新会員システムへの円滑な移行、新会員システム運用後に発見された細かな不具合の修正、GMAILのメール配送基準変更にもなう対応などを行ない、安定した運用を実施した。Webについても同様に安定した運用を実施した。

1 2. 実施事業 9 : 広報 (定款第 4 第 1 項 2 号)

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

【活動概要】

(1) News Letter の刊行

2023 年度は以下の News Letter を発行した。News Letter は従来のメール配信だけでなく、本会の Web ページでも、Web ページの体裁に合わせた形式で写真付きの著者紹介付きで掲載するようにした。

- 4 月 1 日：Vol. 16, No. 1: DEIM 2023, NeurIPS 2022, AAI 2023 発行.
- 6 月 1 日：Vol. 16, No. 2: WWW 2023, ECIR 2023, ICDE 2023 発行
- 7 月 1 日：Vol. 16, No. 3: 日本データベース学会受賞特集号 発行
- 8 月 1 日：Vol. 16, No.4: PAKDD 2023, SIGMOD 2023, ACL 2023 発行
- 10 月 2 日： Vol. 16, No. 5: ICML 2023, KDD 2023, VLDB 2023 発行
- 11 月 3 日：Vol. 16, No. 6: 若手研究者対談企画号 発行
- 12 月 1 日：Vol. 16, No. 7: ACM RecSys 2023, ACM CIKM 2023, ACM Multimedia 2023 発行
- 2 月 1 日：Vol. 16, No. 8: IEEE Big Data 2023, SIG SPATIAL 2023, NeurIPS 2023 発行

(2) 最強データベース講義のポータルページの作成

Youtube で公開している最強データベース講義シリーズのポータルサイトを本会 Web ページ中に作成し、講義ビデオ情報の集約化を行った。

1 3. 実施事業 1 0 : 論文誌編集 (定款第 4 第 1 項 2 号)

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

【活動概要】

「日本データベース学会論文誌（和文）」および「データドリブンスタディーズ」を発行した。

(1) 日本データベース学会論文誌（和文・英文）の発行

① 自由投稿および DEIM 2023 からの推薦論文を対象

② 和文論文誌（Vol. 22-J）の発行

和文論文誌に論文 6 編を採録した。今年度は英文誌の発行はなかった。

(2) 「データドリブンスタディーズ」の発行

① Vol. 3 の発行

論文 2 編を採録した。

1 4. 実施事業 1 1 : 表彰（定款第 4 第 1 項 8 号）

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞，若手功績賞，上林奨励賞，業績賞を選定し，表彰を行う。

【活動概要】

（2023 年度事業報告）

1. dbjapan において，功労賞，若手功績賞，上林奨励賞，業績賞に関する推薦依頼を行った。

2. 表彰委員会を立ち上げ各賞の選定を行い，DEIM 2024 に表彰式を開催した（2024 年 3 月 5 日）。

今年度の受賞者は以下の通り。

功労賞	北川 博之 氏（筑波大学） 清木 康 氏（慶應義塾大学／武蔵野大学）
若手功績賞	奥 健太 氏（龍谷大学） 北山 大輔 氏（工学院大学） 清水 敏之 氏（九州大学） 平手 勇宇 氏（楽天グループ株式会社） 山本 祐輔 氏（名古屋市立大学）
上林奨励賞	加藤 郁之（京都大学） 川畑 光希（大阪大学） 中嶋 一貴（東京都立大学） 陸 可鏡（名古屋大学）

15. 実施事業12：ダイバーシティ推進（定款第4第1項4号及び8号）

担当：ダイバーシティ・ハラスメント委員会

本事業の目的は、DBSJ内のダイバーシティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJに関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

【活動概要】

2023年度は、DEIMを中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施した。また、ハラスメント防止に関して、内規やハラスメント発生時の処理フローの作成を行った。

(1) ダイバーシティ推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

① DEIMでのハラスメント防止活動

(2) ハラスメント防止委員会

ハラスメント通報のルールに関する内規を作成

ダイバーシティ・ハラスメントに対する考え方を宣言としてまとめてWebで公表

ハラスメント発生時のフローを作成

16. 補足説明：名誉会員の推薦

3月に開催した第28回DBSJ理事会において、名誉会員に関する内規を制定した上で、以下に挙げる会員15名を名誉会員候補として推薦した。

歴代会長（5名）：

増永 良文
西尾 章治郎
北川 博之
清木 康
喜連川 優

功労賞受賞者（10名，歴代会長を除く）：

石井 義興
田中 克己
國井 秀子
植村 俊亮
安達 淳
川越 恭二
三浦 孝夫
宮崎 収兄
井上 潮
石川 博

その他・附属明細書（法定記載事項）

その他，事業内容を補足する重要な事項はありません。

以上